

これがオススメ! 読み聞かせ本

中・高学年向き

学習指導要領で読み聞かせがすすめられて、読み聞かせについてのたくさんの本が出版されています。また、ブックリストもたくさん出ていますが、さて実際に子どもたちに読もうと思うと、どの本がいいのか、どうやって読んであげたらいいのか、困ってしまいます。「これなら楽しく読み聞かせができるよ」という本と読み方を紹介しましょう。

6年生の悟は、体育館を抜け出したところで、不思議な黒ネコと出会いました。そこから、「いちばんたしかなもの」を探し、長い長い二分間の冒険が始まります。

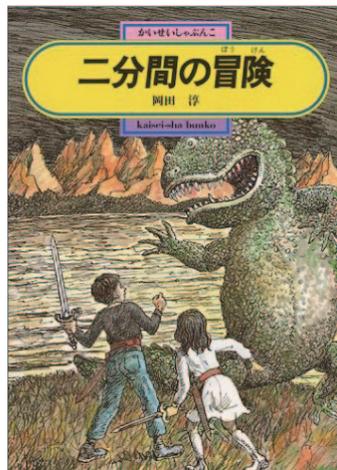
この物語が生まれてから30年が過ぎようとしています。しかしいつになっても色あせることなく子どもたちを魅了し続けてきました。この10年間、5年生には必ず読み語ってきました。姉のクラスで私が読み語ったことを知った弟が、5年生になったとたん担任の私のところに来て、

「いつ『二分間の冒険』を読んでもくれるんですか？」と読み語りを催促し、あとで次のような感想を寄せてきました。「姉がおもしろい本だというので4年生の頃この本を読んだ。しかし『きむ先生の読み語り』

で聞いた方がおもしろく、わくわくしたのはなぜでしょうか」クラスみんなで担任の声をたよりに想像して聞いていく「読み語り」の魅力を、この子は身をもって体験し言葉にしたのだと思います。担任の先生はぜひ、少しずつ時間を作り、読み語っていきましょう。

この本がきっかけでファンタジーに目覚めた子も多くいます。自分たちのいる「学校」という場所が冒険の始まりになるので、想像しやすいこともあるでしょう。作者の岡田淳さんは小学校の先生で、学校を知りつくした上で物語を作っているのです。子どもたちは自然に物語の中に入っていきます。

多くの「岡田淳・作」の物語の中でも最高の作品を子どもたちと共有できることは、『教師冥利のひとつだと思っています』



二分間の冒険

岡田淳／作
太田大八／絵
(偕成社)